



ユニ総合計画の グリーンレポート

1級建築士 秋山英樹
不動産コンサルタント

137号

発行日2020年1月

「失敗がなければ学びもない」

あけましておめでとうございます。

1月号は建築や不動産の知識ではなく、私が最近思うよもやま話にお付き合いください。

今の若者は（私も含めて？）、行動を起こす前にネットで調べる習慣がついています。若者だけでなく老弱男女、電車でスマホをいじっています。ゲームやユーチューブ中毒も多くいるようです。

私は原稿を書く機会が多いですが、インターネット百科事典のウィキペディアなどを参照したりしますが、無料情報は信頼性に欠けますので他の数ヶ所のサイトも検索します。

昔なら情報も少ないため調べる時間も少なく済んでいましたが、最近のネット情報はご存じのように際限なく情報が出されていますので、正確な情報と確信するまでに多くの時間を費やします。

原稿を書くときに限らず、普段の行動でもネット情報に頼っているのが現代社会といえます。情報を検索するにも労力がかかりますが、多くの情報の中から収取選択した情報を元に行動するわけですから失敗は少なくなります。

しかし、知りたい情報が無かった、情報が間違っていたなど思いもよらぬ事態になった場合、失敗が少なかった現代人は「まさか！」ということになり右往左往することになります。

昔なら、思いもよらぬ事態は多く、それでも何とか解決して生きてきたはず。小さな失敗の積み重ねは、大きな失敗の備えにもなります。

「まさか！」の事態を解決する（解決しなくても）、何とかすることにより、多くのことを「身にしてみても」学んでいました。「身にしてみる」ことが少なければ、ヒトは進化しません。

同様に「学び」も苦勞して手に入れないと身につけません。ネットから得た知識は脳に残り難いともいわれます。簡単に得られた知識は身につけにくいようです。

幼い時の記憶も同様で、子供のためと思って行った楽しいことは、親の記憶には残っていますが子供の記憶には残っていないことが多いのです。私たち自身、振り返って記憶をたどっても、幼いころの楽しい記憶は少なく、大変だったこと、怖かったことなどマイナスの記憶がほとんど

だと気が付きます。

よく文明の発展はヒトを退化させるという議論がありますが、楽をして体を動かさなければ不健康になります。おいしいものも食べ過ぎれば不健康になります。自明の理です。

流行りの「やさしさ」がはたして本人のためになっているかという疑問も出てきます。

例えば24時間空調で一年を通して快適な住環境が売りの住宅は、高齢者にとってはよいかもかもしれませんが、季節の寒さ暑さを感じられない住宅が子供にとってどうなのでしょう。

子供の学習環境に良かれと思って子供部屋を作るケースが多いですが、頭の良い子の学習環境を調査すると食卓のテーブルで勉強していた子供が多かったという調査結果もあります。

高齢者の住まいではバリアフリーが当然というイメージがありますが、あえて大きなバリア（段差）を設けた高齢者施設では老人が元気に暮らしているという話も聞きます。高齢者にやさしくすることが本人にとってプラスとは限らないのです。

赤ん坊には手を貸さないでじっと見守る母親も、年寄りには介助してしまいます。見守る行為は手助けする行為より難しく、高齢者施設では手引きで歩かせるより、車椅子を使用したほうが楽なため、入所者はすぐに歩けなくなります。

AIを利用したスマートハウスの商品開発が盛んですが、自力で行う生活行為が減少することが、住まう人にとって本当に良いのかも見直す必要もあるのではないかと思います。さらに仕事場でパソコン等の電磁波環境にさらされ、家でも強い電磁波環境にさらされることの良否が問われる時代になると推測します。

私自身は、この30年近く木曜日の夜にスポーツ教室に通っていますが、仕事のひとつと考えて通います。仕事と思えば休めません。長い階段では、「楽と便利は健康の敵」といいながら、ついエスカレーターに乗ってしまいますが（笑）、毎日欠かさず体幹トレーニングなど、健康に気をつけて生活しています。

楽と便利さを求めて新たなビジネスが多く誕生していますが、その反対も新たなビジネスとして今後は誕生していくのだと思います。